

## 松浦淳介研究会

# 2022 年度募集要項

### 1. 本研究会の目的

本研究会では、主に現代日本における政治現象を対象として、理論的、実証的な研究を行います。現代日本政治分析は、政治学の一分野として、社会科学の理論やモデルの発展に寄与するのみならず、同時代の日本政治を深く理解し、またその行方を展望するうえでも、きわめて重要な意味を持っています。現代の日本政治は日本に暮らす人びとにとって、遠い過去の政治や他国の政治と比べて身近なものであるため、誰もが「評論家」として、持論を展開し得る対象といえますが、一方で、社会に溢れる政治評論の中には、単なる印象論や根拠を伴わない規範論が少なからず散見されます。

そこで、本研究会では、政治学的な観点から、日本政治に関する世間の「常識」を批判的に検討するとともに、主体的に政治現象を捉え、考察する能力を涵養します。また、単に政治学を「勉強」するだけでなく、自らオリジナルな「研究」を実践することを目指します。私自身は主に日本の国会を対象として、実証的な研究を行っていますが、それ以外にも、首相のリーダーシップや政官関係、地方政治など、日本政治全般に強い関心を持ち、知的好奇心に溢れた学生を、法学部以外からも広く募集します。

### 2. 本研究会の活動

本研究会では、「研究」の第一歩ともいえる卒業論文を念頭に置いて、入ゼミ当初から計画的に準備を進めます。具体的には、3年次において政治学の方法論に関するテキストを輪読し、政治学的な考え方や研究手法を学びます。そのうえで、ゼミ員同士で実際に共同研究を行い、その成果を三田祭論文にまとめます。4年次においては、先行研究を踏まえて、自身の研究計画を練り、夏休みの合宿などで中間報告を行います。秋学期には、卒業論文を完成させるだけでなく、学内の論文誌などへの掲載も目指します。

その他、本研究会では、学内外の政治学系のゼミとの合同研究発表や学会での報告、実際の政治過程に深く関わるアクターに対するインタビューなども予定しています。

### 3. 入ゼミについて

- ・募集予定人数  
10～15名程度。

・入ゼミ課題

①自己紹介書

これまでに最も力を入れてきたことや将来の方向性などを 1,000 字程度でまとめる。また、連絡先として、メールアドレスを明記する。

②研究計画書

卒業論文を念頭に置いて、自身の研究テーマと研究計画を 1,000 字程度でまとめる。

③書評論文

以下の図書の中からひとつを選び、その内容を簡潔にまとめたうえで、学術的な意義や課題について記述する。書式は自由であるが、分量は 3,000 字を目安とする。

〈指定図書〉

飯尾潤『日本の統治構造—官僚内閣制から議院内閣制へ』中央公論新社，2007 年。

大山礼子『日本の国会—審議する立法府へ』岩波書店，2011 年。

辻陽『日本の地方議会—都市のジレンマ，消滅危機の町村』中央公論新社，2019 年。

・締め切り

2022 年 1 月 28 日（金） 当日必着

・提出方法

締切日までに①～③を以下に郵送する。なお、郵送にはレターパックや簡易書留など、「郵便追跡サービス」が付いているものを用いること。

送付先：〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

慶應義塾大学法学部 松浦淳介研究室

・問い合わせ

松浦 淳介

E-mail: matsuura@law.keio.ac.jp

以上